

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月25日

【26010】札幌市立駒岡小学校

1 本年度の重点目標

【「自然・人・未来」とつながり、主体的に考え、行動する子どもの育成～3つの風船を膨らませよう】

2 本年度の経営方針

□〈みどりの風船〉自然とつながる

- ・学校林・精進川等の体験的活動を軸にしたカリキュラムマネジメント
- ・スーパーロング中休みを活用した日常的な自然体験活動
- ・歩くスキー等冬の体験学習の充実

□〈ありがたいの風船〉人とつながる

- ・相互承認の態度・自己肯定感・自己有用感を高める。
- ・協働的な学習の日常化
- ・子ども主体の行事の創造・運営

□〈? (はてな) の風船〉未来とつながる

- ・持続可能な未来の担い手へ
- ・教科横断的な学習
- ・子ども一人一人への目標設定と評価

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

(A~Dの4段階評価でご記入ください。) ↓

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	今年度の成果と改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
〈みどりの風船〉 自然とつながる	学校林・精進川等の体験的活動を軸にしたカリキュラムマネジメント	A	学校林の活用においては、昨年度に引き続き「森林循環型」の学習を滞りなく展開することができた。また、札幌市立大学と連携した「屋上庭園の空間デザイン」などの学習開発も深まりを見せ、子ども一人一人の自然に対する興味関心を高めたり、目標・見通しをもって主体的に問題解決しようとする姿を引き出したりすることができた。今後も、各教科とのつながりや6年間の系統性を整理し、よりよいカリキュラムマネジメントを目指していく。	A	A
	学校林走や日常の体育学習を通しての体づくりの取組	B	一人一人に学校林走の目標を捉えさせることで自分自身の健康を意識し1年間という長期的な視野で身体づくりを考えていくことができた。また、歩くスキーでも十分な運動量を確保し駒岡の自然を生かしたからだづくりの取組をすることができている。今後は更に東海大学との連携を強め自然を生かした体育学習を構築していきたい。	A	A
	スーパーロング中休みを活用した日常的な自然体験活動	A	<ul style="list-style-type: none"> ・たも網等の追加購入により、休み時間に精進川での活動を楽しむ子が増えた。 ・休み時間にも学校林で「学校林走」や「ソリ遊び・雪遊び」に取り組むことができるようにしたことで、夏・冬関係なく駒岡の大自然に親しむ子どもの姿がみられた。 ・休み時間に屋上を開放することで、農園の水やりをしたり、青空の下で読書やお絵かきを楽しんだり、巣箱に産卵した卵の様子を監査したりと多様な形で自然と親しむことができる場づくりを推進することができた。 ・冬の季節にもそりコースを作成する等、休み時間の学校林での遊びを作り上げたり、森のピタゴラス、青少年山の家等の専門家による出前授業を実施したりすることで、冬季の外遊びの更なる活性化に取り組むことができた。 ・今後は札幌市立大学生と共に、屋上のさらなる活用を目指した取組を進していくと共に、「学校林」「精進川」「屋上」とより積極的に関わろうとする環境を整えていく。 	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・駒岡小学校の特性を生かした指導をしていることが伝わる。 ・大学との関わりが良い。多方面経験が望ましい。精進川の活用を多くすると児童の興味も増す。 ・スーパーロングの中休みは児童の最大の楽しみになっていると思う。 ・川や林が近くにあるだけでなく、子どもが実際に自然へ入り体験できるよう工夫を積み重ねてきた結果、現在の親水環境や装備の整備、スーパーロング中休みなどの取組が形づくられてきたと考える。「安心・安全の確保」と「自ら状況を判断する力の育成」の両立は難しいが、今後も試行錯誤を重ねながら取組の深化を期待したい 			

へ あ り が と う の 風 船 人 と つ な が る	相互承認の 感度・自己 肯定感・自 己有用感を 高める	B	今年度新設した「ありがとうの日」では、学級遊びをスーパーロング中休みで実施した。個々の思いを積みながら遊びを構築していく姿が見られた。また、児童委員会や6年生のプロジェクトチームが主体となり、朝の「あいさつ運動」や各行事と関連した「ありがとうメッセージ」の取組等を推進したことで、子どもたちが互いを大切にしたり、互いのよさに目を向けたりする姿が多く見られ他者意識の高まりが感じられた。次年度もさらに相互理解や他者尊重の意識を高め、より子どもたちのつながりをつくっていくことができる教育活動を展開していく。	A	A
	子ども主体 の行事の創 造・運営	A	高学年が主体となり、運動会や全校宿泊行事等の各行事においてリーダー性を発揮しながら運営することができた。また、みずなら活動(縦割り活動)においては、高学年だけが運営を担当するのではなく、全学年の児童が企画・進行に取り組むことで、児童一人一人の主体性を高めることができた。次年度も児童会活動や縦割り活動を中心に、児童の自治的な活動のさらなる推進を図っていく。	A	A
	協働的な学 習の日常化	B	毎日の授業の中で児童相互の連携や協力が生まれ、他者と関わり合うよさや、協力して目標を達成する喜びを実感することができるような工夫を取り入れてきた。学び合いを通して多様な考えに触れ自らの考えを深め、高めていくことができてきている。次年度も聞き合うことを大切に、友と学ぶよさを十分生かした学習構成を考えていく。	A	A
学校関係者評価 委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り活動を通して、自主性を育む教育指導を続けていることに感謝する。 ・共同的な学びで教える大変さと手ごたえが見える。 ・教職員と児童が互いをよく知るとい、少人数校ならではの関係性は駒岡小の大きな特長である。意図的に設定された場面での連携や協力が、設定外の場面でも自発的に生まれる余白の時間が確保されていることも、学校の強みとして重要である。 			
未 来 と つ な が る	分かる・でき る楽しい・授 業	B	今年度は日々の教科学習や各行事において子ども一人一人が自己の目標を設定し、その達成に向かって子どもが「見通しをもって」主体的に活動することができるように努めてきた。今後は目標に向かって取り組む過程の中で、教師の価値付けや評価の機会の充実を図り、より一層子ども寄り添った支援の体制を整えていく必要がある。	A	A
	問題意識を 大切にした 学習	B	授業において、児童が学習内容に対して問題意識をもって取り組むための工夫が十分でない場面が見られる。学習の目的や課題が生徒に明確に伝わらず、主体的な学びにつながりにくいことが課題である。今後は、導入で興味・関心を引き、学ぶ意義を理解させる工夫をさらに充実させる必要がある。	A	A
	自ら学ぶ力 の育成ー持 続可能な未 来の担い手 へ	B	持続可能な未来の担い手を育むために、学校では自ら課題を見だし、その解決に向けて取り組むといった「自ら学ぶ力の育成」を目指して教育活動を展開している。日々の授業の他、今年度は家庭学習の推進に力を入れて指導に当たってきた。家庭での学ぶ習慣づくりという点では、各ご家庭の協力を得ながら一定程度の効果が見られたが、今後はどの児童も自己の目標をもち、意欲的に取り組むことができるようにすると共に、家庭学習のねらいを保護者と共有していく。	A	B
学校関係者評価 委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の個性(成長度)を見極めながら指導体制を模索しているのが伺える。 ・それぞれの色に輝きを育てる難しさを感じる。 ・保護者であった頃、「家庭学習とは何か」に戸惑った経験がある。自主性は重要だが、導入期には事例提示や体験の機会を設けることで、家庭学習のイメージが共有され、家庭間の差の縮小にもつながると考える。 			
信 頼 さ れ る 学 校 の 創 造	子どもを守 る学校づくり	B	いじめ防止の取組については、児童への指導や年3回の「悩みやいじめに関するアンケート」の実施、「いじめ対策委員会」の開催など、学校としては児童への支援の体制を整えている。ただ、児童は「いじめを起こさないために自分は何かをしている」という意識は低い。次年度に向けて教師側からの指導だけでなく、委員会活動などを生かしたいじめ防止に関する自治的な活動の推進を考えていきたい。	A	A
	子どもを支 える学校づ くり	B	年3回の個人懇談や日常的な保護者への連絡など、家庭との連携については日々心掛けていた。また、スクールカウンセラーとの連携、全教職員で子どもを見守る体制づくりを推進し、子ども一人一人が安心して過ごせる学校運営を目指していった。今後は個人懇談や学級懇談会の更なる充実と日常的な家庭とのつながりを大事にしていきたい。また、学校 HP の更新についても検討していく必要がある。	A	A
学校関係者評価 委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止、ヒグマ対応、各種災害に対する取組に様々な対応をしているのが伺える。 ・児童の学びの期間で自分に少しずつ気づき理解していく育ちを見守る大切さに敬服した。 ・全校児童と教職員が互いをよく知る関係は、多面的な見守りにつながり、児童にとっても信頼できる教員を選んで相談できる安心感を生む。また、保護者が深刻な相談に至る前に思いを共有できる、日常的で無理のないやり取りの場があることが望ましい。 			

4 その他、学校運営に関わってご意見等ございましたら、ご記入ください。

・「理想の教育は学校と家庭が一体となって実現できる」まさに現代の家庭環境での PTA の存在がより大切である。
 ・公立小学校であっても、教職員自身が駒岡の環境を理解し楽しむことで、新たな発想や取組が生まれると考える。地域には豊かな歴史があり、住民も学校を支えたいという姿勢が強く、協力的である。教職員がのびのびと考え、働くことのできる学校であり続けることを期待している。